

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2770105860
法人名	社会福祉法人 宝生会
事業所名	あいする久世グループホーム
所在地	堺市中区東八田387-1 (電話) 072-278-0171
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 19年 10月 15日

【情報提供票より】(平成 19年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 2月 1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	27人	常勤	21人, 非常勤 6人, 常勤換算 24.9人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000・51,000円	その他の経費(月額)	約15,000円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	① (200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / ②	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,450円			

(4) 利用者の概要 (平成 19年 6月 1日現在)

利用者人数	25名	男性	4名	女性	21名
要介護1	4名	要介護2	11名		
要介護3	8名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.5歳	最低	76歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	喜多クリニック
---------	---------

作成日 平成19年12月5日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業主は自らの介護経験から介護保険事業所の必要性に気づき、ケアハウスを創設しましたが、入居者の需要が増加したため認知症対応型グループホーム「あいする久世」を設立しました。同時にケアプランセンターやデイサービスセンターを併設し、地域のサービスの拠点としています。「日々楽しく、自分らしく、ふれあいを大切に、心やすらぐ場所」をホームの理念とし、人を感じ、季節を感じながら日々の生活を送れるよう支援目標を掲げています。立地環境が住宅街の中に位置する事で「住む」「生活する」といった日常の意識を利用者に持ってもらうことを課題として、盆踊りや秋祭り等地域行事への参加、近隣の畑での芋掘りや簡単な農園作りをするなどの取り組みをしています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回評価での改善課題は5項目ありました。管理者は要改善項目について職員へ口頭で報告し、改善に取り組むよう課題提起していますが、その記録や職員間で改善のための検討を行ったという記録は残していません。この1年間で改善した項目は2項目です。改善した項目内容は①理念の周知徹底②利用者の生活の様子を文面にして家族へ月1回以上報告することです。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価については管理者が職員に口頭で説明しています。自己評価票の作成については、管理者が職員の意見を聞き、まとめています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 平成18年12月に1回開催していますが、記録を残しておらず内容を確認できませんでした。討議内容を活かした取り組みも確認できませんでした。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月1回、生活状況、健康状態、金銭管理状況についての報告書を家族に送付しています。特に気になる問題があれば主治医や管理者を含めた話し合いや説明の場を設けています。個別金銭出納帳に家族の了承サインがあるのはごく少数です。ホームでは苦情受付窓口を設置しています。寄せられた苦情、不満については管理者が誠意を持って対応しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 盆踊りや秋祭り等、地域の行事に参加しています。お祭りの太鼓台がホーム玄関前に入り、利用者には喜ばれています。自治会の寄り合いには管理者が参加し情報交換をしています。近隣の畑の芋掘りに出向いたり、近所の農園からの収穫物をいただいたり、逆に地域の活動にホームの会議室を提供する等、近隣との友好関係を深めています。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「日々楽しく、自分らしく、ふれあいを大切に、心やすらぐ場所」をホームの理念とし、人を感じ、季節を感じながら日々の生活ができるように心がけています。またホームを住宅街の中に位置する事で「住む」「生活する」といった基本的な意識を利用者に持ってもらうように、利用者の能力に応じた生活を支援するように努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は総合玄関に掲示し、共有しています。朝礼やカンファレンスなどで確認し、具体化するよう努めていますが、理念が全職員に徹底できていない部分があります。理念の理解が進むように施設内研修を期待します。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	盆踊りや秋祭り等、地域の行事に参加しています。お祭りの太鼓台がホーム玄関前に入り利用者に喜ばれています。自治会の寄り合いに管理者が参加し情報交換をしています。近隣の畑の芋掘りに出向いたり、近所の農園からの収穫物をいただいたり、逆に地域の活動にホームの会議室を提供したりして、友好関係を築いています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は前回の外部評価の結果を口頭で説明していますが、評価表そのものは配布する、回覧するなどの共有化を図っていません。管理者は職員の負担を軽減するためという理由で自らが改善に取り組み、この1年間で2項目の改善をしています。	○	職員全員が外部評価の意義を理解し、自らの課題として共有し取り組むことが求められます。改善委員会を設けるなどして職員間で検討する機会を設けてはいかがでしょうか。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規定を定めていません。運営推進会議は昨年1回開催していますが記録を残していません。会議で出された意見については記録がないので確認できませんが、出席者は自治会役員、ホーム職員で開催しています。管理者は運営推進会議の開催意義を見出せず、真にホーム運営に効果的なのかどうかについて疑問を抱えているため、本年度の開催予定はありません。また、地域の包括支援センターおよび行政の参加はなく、行政からの開催要請も行われていません。	○	運営推進会議の規定を定め、2ヶ月に1回、年6回程度の開催が求められます。会議には利用者・家族、地域自治会代表、民生委員、地域包括支援センター、市（区）高齢福祉課等の出席が求められません。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市（区）担当課に福祉サービス等について問い合わせることがありますが、何ヶ月も回答が通知されない状況があります。市（区）担当者からは事故報告等のアドバイスや運営推進会議の開催要請など積極的な連絡や指導はありません。市（区）から文書が送られてくる程度の情報提供は受けています。	○	市（区）からのサポートがない場合にも、ホームからの積極的な要請を行うなどの取り組みが求められます。特に運営推進会議の参加要請は早急に行うことが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、生活状況、健康状態、金銭管理状況についての報告書を家族に送付しています。相談や苦情があれば状況を説明し、気になる問題があれば管理者を含めた話し合いや説明の場を設けています。利用者ほぼ全員の金銭管理を行っていますが個別金銭出納帳には少数の了承サインしか確認できませんでした。	○	個別金銭出納帳に家族の了承サインを得ることが求められます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来られたら要望や意見を聞くようにしています。ホームでは苦情受付窓口を設置し、寄せられた苦情、不満については管理者が誠意を持って対応しています。しかし、一部に接遇の課題があるとして改善を求める利用者・家族の要望も上がっています。運営推進会議に家族の出席を求める、職員に接遇の研修を行なうなどの取り組みが望まれます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内職員の異動は行っていませんが、種々の理由から職員の退職があり、新規職員の配置を行なう状況がありました。新人職員には研修期間を設け、利用者や家族に紹介をして馴染んでもらえるように努めています。しかし、家族が来られた時にタイミングよく紹介ができていない場合もありました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の外部研修記録はありますが、内部研修の記録は確認できませんでした。職員が個々人で研修を受けているという状況はありますが、ホームの研修体制は確立していません。	○	年6回以上の研修を行うこと、そのうち年2回以上は外部研修を取り入れ、記録を残して職員間で共有することが求められます。また、認知症対応、感染症対策、緊急時の対応、採用時研修を含む職員研修、育成が望まれます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者連絡会は行われていません。ホームから同業者や関連事業者との交流会や研修会開催について働きかけは行っていませんが、同業者間の個別交流はあります。全国レベル、大阪府下対象のネットワークに加入しています。今後は地域の同業者や関連業者等との交流会の機会を広げ、学習会や相互の施設見学会を行う等の取り組みが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や入居時の面接などは本人と一緒に来られることを家族に勧めています。必要な場合には家庭訪問を行い、入院されている方には病院訪問を行っています。入居希望者には同法人運営のケアハウスやデイサービス利用者もあり、事前に雰囲気に馴染んでもらうようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は、調理や味付けなど利用者に教えてもらうことが多くあります。おやつ作りやホーム行事、お祭りなどに参加することで一緒に喜び合う関係を築いています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話やふれあいの中で利用者の意向を聴取する、確認するなど希望を尊重するように努力をしています。しかし一部には希望や思いを職員に理解してもらえず、拒否や抗議をされる利用者の状況がみられました。	○	職員に対し、接遇に関する研修を行うことが求められます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを行っており、家族の願いを反映した介護計画書を作成しています。介護計画に沿ったケア記録がありますが、計画書を職員間で共有しているという確認印やサインがありません。介護計画書は家族等への説明を行った上で了承サインをもらっていますが、一部ユニットでは了承サインの少ない計画書が見られました。	○	介護計画書は職員間で共有し、職員全員が目を通し確認したというサイン（押印）が求められます。また、家族の了承サインは全員分が揃うような取り組みが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に見直しを行っています。見直し時期以外にも必要時には見直しを行い、利用者の状態の変化や要望に合わせた介護計画書を作成しています。アセスメント表、モニタリング記録、カンファレンス記録を作成しています。一部アセスメント表、モニタリング記録が確認できない介護計画書がありました。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人運営のデイサービス事業所の協力を得て、事業所が休みの日に、送迎車を活用しホーム利用者の外出支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者がそれぞれの、かかりつけ医療機関で引き続き医療が受けられるように支援をしています。受診については家族が同伴されるようにしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や退居に当たっての条件を契約書に明記し、入居時に家族等の了解を得ています。重度化した場合の対応については、早い段階から本人や家族等の意向を聞き、希望に添うような援助をしています。また、終末期の看取りをする方針があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては契約書に明記しています。雇用契約書については職員の秘密保持を義務付ける文面があります。利用者の記録等の保管は厳重にしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニット毎の格差はありますが、ほぼ自分のペースで生活されていることが記録等で確認できます。ただ一部の職員において、利用者の思いを理解できず対応が不適切なため、怒りの感情をあらわにしたり拒否したりされる場面がありました。職員が認知症接遇の研修を受けられるようにすることが望まれます。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は昼食時、利用者と同じものを食べながら、食事介助など必要なサポートをしています。ホームではおやつや食材の購入に利用者とともに出かけ、調理や下ごしらえなど一緒に楽しんでいます。後片付けは利用者一人ひとりが自分のできることをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回、週3回の入浴日を設定しており、ほとんどの利用者が週3回の入浴をしています。毎日入浴を希望する利用者にはできるだけ実現するように努めていますが、一部対応できていない場合もありました。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	刺身や寿司などの外食、買い物や散歩、植木の水やり、家族との外出、レクリエーションなど外へ出での楽しみごとや編み物、裁縫、書道、歌、折り紙、ぬり絵などそれぞれの楽しみごとがあり、職員は極力希望に添えるよう支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、外食、周辺散歩、外に出での日光浴、園芸、芋ほりなどのレクリエーション、ドライブなどの外出記録があります。しかし、真夏時には外出が少なく、また外出を好まれない利用者などでは極端に機会が少ない状況も見られます。好まれない場合にも工夫して最低でも週1回程度の外出支援が望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	総合玄関には鍵をかけていません。ユニット玄関の鍵は中から押せば開く鍵になっており、誰でも押すだけで出ることができます。身体拘束をしない方針があり拘束はありません。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の消防避難訓練を行っています。そのうち1回は消防署の協力を得ています。非常用食料品の備蓄はありません。水は一人3リットル程度の備蓄をしています。	○	災害対策としての食料品の備蓄が求められます。利用者一人当たり3日分程度の食料品、飲み水の備蓄をされると良いのではないのでしょうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者搬入の食材を使用していますが、メニューについては同法人所属の管理栄養士に相談しています。食事摂取量は三食ともに把握し、水分摂取量は一日を通して把握しています。必要な利用者には摂取量の記載をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間を中心にくつろげる場所を設けています。廊下やトイレ、浴室などの共有空間が広く、ゆったり利用することができます。ユニット毎に景色は違いますが、中庭に出たり、ベランダに出たり、外の空気を味わうこともできます。一部ユニットでは廊下が暗く、玄関が殺風景であるという状況が見られるため、今後の工夫が望まれます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベランダがあり、明るく清潔な居室環境が整えられています。利用者は家族の写真、絵画、机、イス、タンス、衣装ケース、テレビ、時計など馴染みの家具を置いて過ごされています。一部、物を置くと不穩になるという理由で全く物を置いていない部屋が少数見られました。危険なものでない限り馴染みのものを置く工夫が望まれます。		